

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093300079		
法人名	社会福祉法人 北筑前福祉会		
事業所名	宗寿園グループホーム愛々		
所在地	福岡県宗像市福元5-2-2		
自己評価作成日	平成25年10月24日	評価結果確定日	平成26年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/i/index.php?act=on.kouhyou_detai_2013_022_kan=true&ji_gyosyoCd=4093300079-00&PrEfCd=40&VerSi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16 TEL:092-589-5680 HP:http://www.r2s.co.jp		
訪問調査日	平成25年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

同敷地内にある福祉センター(同法人運営)の行事に月1~2回程度参加し地域の方達との交流に繋がっています。又、周囲には学校・体育館・公民館などあり地域の自治会に加入し広報の配布・地域の方達の協力で行事への参加機会も有り地域に密着した事業所です。家事活動を主に個々の残存機能を生かし理念である、食を楽しむ為にメニューから考え買い物、食事作り、片付けまで、利用者の方達が出来る事を積極的に支援しています。週3~4回の買い物に出掛け利用者の買い物、GHの買い物などをする事で外出する機会を増やし心身の活性化に努めています。入所しても、自宅・ご家族との繋がりを大切にしています(一時帰宅・外出、外泊)又、年2回家族会を開催しバスハイクには入居者・御家族・職員との交流の機会もあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「宗寿園グループホーム愛々」は近郊に複数箇所福祉施設を運営する社会福祉法人を母体とし、開設から6年目を迎える1ユニット型グループホームである。法人は同敷地内にある福祉センターの運営も市から引き継いでおり、今も変わらず市民の憩いの場となっている。「愛々」は敷地の一角において大規模デイサービス、認知症対応デイと併設して営まれ、福祉センターが目と鼻の先にあることで、日常的に地域住民と一緒に利用しており、踊りや映画上映、イベント、入浴などを楽しんでいる。センター内には同じく法人運営のヘルパースクールもあり、実習の受け入れによって卒業生の就労にもつながって相乗効果が生まれる他、ケアマネージャーや介護福祉士の受験対策から職員のスキルアップにもつながっている。関連事業所同士の交流や法人の研修活動も活発で技能向上の機会も多い。食事にも力を入れて取り組み、入居者に人生を楽しんでもらい、理念にもある「和気あいあい」の実現に向けて、これからも地域のみならず市全体を支える高齢者施設として、大いに発展活躍が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	○経営理念である「共生」を基本とし「素敵な笑顔で和気愛々」を運営方針に掲げている。	法人全体の経営理念である「共生」や、名称の「愛々」は職員の思いから作られた。事業所独自の運営理念には、開設時の職員の気持ちが込められている。入社時に理事からの講話があり、理念に関して伝えられ、全体研修でも話される。理念はわかりやすい言葉で伝えられ、日頃から親しんでケアに生かされていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	○近隣の店への買物を行っている。 ○隣接する老人福祉センターを利用する事により地域住民と接する事が出来る。 ○地域の行事見学(運動会等) ○地域の自治会への加入(GHとして)	宗寿園全体で行う夏祭りは地域の祭りとしても定着しており、大々的に町ぐるみで催されて盛況である。事業所としても町内会に加入し、地域の運動会の見学や、隣接する体育館の介護予防教室に参加することもある。母体法人で福祉センターの介護相談をしたり、併設デイサービスと合同でボランティアの慰問を受けることもある。近隣の商店も顔なじみで日常的に挨拶も交わされている。	法人全体として地域との関わりは深いが、グループホームを中心とした近隣住民との関わりや、認知症の理解を深めてもらうような情報発信の取り組みが望まれる。今後は福祉センターを活用された活動などが検討されることにも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	○地域住民に向けた認知症の勉強会やグループホームとは？又他の施設はどんな施設(施設の紹介)等の情報を提供している。 ○他事業所(施設)見学会の実施		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○推進委員さんよりの助言、地域の子供達との関わり(民生委員、自治会長さんの協力)	2ヶ月毎に開催され、市職員、地域包括、民生委員、区長や家族などが参加される。リビングで話し合われるため、利用者も参加しようと思えば気軽に参加できる。和やかな雰囲気で見えが飛び交い、質問やアドバイスも多い。会議で避難手順に関しても意見をもらい、その後の取り組みにもつながった。議事録は受付において公開されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	○運営推進会議、地域密着会議を利用しながら協力関係を築いている。	運営推進会議にも毎回参加してもらい、それ以外で質問があるときはFAXを使って記録にも残している。事業者交流の場でもある「地域密着ネットワークむなかた」には市職員も参加されており、顔を合わせる機会も多く、何かあった時はざっくばらんに話がし易い関係が作られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○研修会等に参加し意識を高め、日頃より話し合いをし、職員間の連携を図り、拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人全体の研修と事業所の研修が年に1回ずつあり、外部研修の伝達も行っている。玄関施錠もしておらず、今までに拘束につながったケースもなく、ベッド転落の恐れがあるときも布団に変えたり、センサーマットでの対応を行った。言葉遣いなど気づいた時は管理者が注意して、行動を遮ることなく柔らかな言葉で接するよう心がけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	○支援のなかで、気付いた事があれば、その場で話し合うようにしている。		

H25自己・外部評価表(宗寿園愛々)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	○研修会、講習会に参加し知識を深めるなどの取り組みを行い、必要とする方には、すぐに対応出来るように支援体制をとっている。	現在成年後見制度の利用があり、事例や資料を活用したり、内外の研修会によって職員も一般的な理解を持つようになっている。母体法人の弁護士や関係者とも協力して支援を行い、説明用のパンフレットや資料なども準備されていた。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○見学、電話での問い合わせが気軽に来るように窓口を設けている。利用者、家族等が不安や疑問に思う点については、十分な説明を行ない理解、納得を得た上で契約に及んでいる。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○運営推進会議を年6回開催し家族に参加して頂き意見、要望などを伺っている又は、家族会を年2回開催し懇親会を兼ねて意見の交換会もされている。頂いた要望、意見には迅速に対応している。玄関に意見箱を設置している。	支払を現金にすることで、家族に面会の機会をもってもらっており、協力的で訪問も多く直接意見を聞き取っている。メールを使って写真を送ったり、おたよりも毎月作って日常の様子を目に見えるように報告している。年に2回の家族会や合同バスハイク時の懇親会などで意見の言いやすい関係を築き、会は家族同士の交流の場ともなっている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	○毎月のミーティングや年1,2回のフリートーク等を実施し意見を述べる機会を設けている。常勤、非常勤一緒に月担当を決め行事等の企画にアイデアを出し合い全職員になげかけている。	入居者の為になると思ったことには積極的に取り組み、職員から出された意見は前向きに検討して、経費のかかることでも運営のサポートは手厚い。職責を問わず意見の機会が与えられ、改善につなげている。法人グループ全体で集まるフリーミーティングもあり、本部や他部署とも話す機会が設けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	○年2回自己評価の場が設けられており各自、目標を掲げ、一人ひとりが向上心を持って働けるようにつとめている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	○平等な人選が行われており、差別等はない。採用された職員は本人の持つ能力、特技等を発揮出来る場をもち活躍してもらっている。資格取得、研修等に積極的に取組んでもらい質の向上にも力をいれている。	全体で障害者雇用も進められており、マッサージや清掃などで活躍している。年2回の自己評価や研修案内によってスキルアップが図られ、法人運営のヘルパースクールによる資格取得支援もあり研修も希望するものに参加できる。職員は能力を活かして調理や行事担当など役割をもって職務にあたる。法人内での異動も希望を取り入れながら流動的に行なえ、休憩やスタッフルームなどの環境整備もなされていた。	職員の自己評価による職務分析はあったが、上長や管理者による客観的評価も加えることで、より職員のやりがいにつながるものに活かされ、スキルアップとモチベーションアップが図られていくことに今後は期待したい。
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	○法人の基本理念に「人権を尊重し、人としての尊厳の確保」を掲げており、ご本人の人権を尊重し尊敬の念を持って接している。職員に対しても人権教育や研修に参加してもらう事に積極的に取組んでいる。	法人が主催する人権研修があり、資料やビデオ教材を活用しながら行われ、職員が参加している。出ていない職員にも資料回覧や伝達で情報を共有する。今年市職員の外部講師で招いての研修が開かれ、毎年定例化された計画的な研修が行われていた。	

H25自己・外部評価表(宗寿園愛々)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○随時、研修や講演会の情報を掲示、回覧し、法人内外の研修を受ける機会が設けられている。○資格取得に対する援助がある。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○2か月に一度「地域密着型サービス事業所連絡会」に参加しており、連携をとる機会となっている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	○管理者、ケアマネージャーが主となり、それまでの本人の生活背景を考えながら、本人の意思を尊重し話しをするようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	○家族からは、十分に話しを聞き現在の状況を把握すると共に、思い・訴えを受け止めるように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○状況に応じた支援が出来るようにアドバイスを行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	○一方向の関係で支援するのではなく、利用者から学ぶ姿勢を忘れず信頼関係を大切にしている。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	○家族からの思いを伺いながら、職員の思いを伝え、一緒に本人を支えていくという協力関係を作っていくように努めている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○電話・手紙・年賀状など、良い関係を継続出来るように支援している。 ○遠方のご家族とFAXでやり取りしている。	近隣の方や昔なじみの知人の来訪も多く、キーパーソン以外の家族にもメールなどで連絡して関係が継続できるように支援し、遠方の家族とも手紙のやりとりや電話などで連絡をとっている。個別ケアでの対応も計画し、自宅への外泊や買い物時に懐かしい場所へのドライブなどの支援も行う。継続した趣味の働きかけとして編み物や俳句の投稿をした方もいた。	

H25自己・外部評価表(宗寿園愛々)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	○家事活動や外出の機会に体験や思いを話していただき関わっている。外出・買物・レクを一緒に行う事により良好な関係を築いている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	○転居先への面会、死去された際のお通夜又は葬儀への参列を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○担当者会議や会話などを通し暮らし方の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は本人の普段の言動を観察、家族と情報交換しながら検討している。	センター方式を活用したアセスメントを行い、家族からも聞き取って、用紙に記入してもらい情報を把握している。独自のアセスメントシートによっても主要なケア項目の確認をし、職員も随時現場の情報を反映させて内容を補完している。日頃の様子や反応をみてプランにもつなげ、アセスメントにも担当職員が主に関わって取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○入所時にはセンター方式の用紙に家族に記入していただいている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	○職員間で情報交換を行いながらバイタルチェックや活動、食事量等を通して変化がみられていないか把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	○月1度のミーティング等、又適宜カンファレンスを行い、各利用者の状態、状況を話し合いその結果をふまえてケアマネが計画を作成している。必要に応じて家族と担当者会議を実施している。	入居者ごとの担当を決めて、職員は1、2名を受け持ち、モニタリングや家族とのやりとりを担い、カンファレンス運営にも深く関わって取り組んでいる。カンファレンスには出られる職員は全員参加し、プランの情報を全体で共有して意見を出し合い、状況にそった迅速なプランの見直しにつなげている。プランの目標はナンバリングで実施記録に反映させ、日々の実施につなげていた。医療ケアが必要なときは法人の看護師とも協力して担当者会議を開き、チームケアに取り組んでいる。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○ケース記録の他ノートでの伝達、モニタリングのほか必要時(心身の変化)にはカンファレンスを行い見直しに努めている。		

H25自己・外部評価表(宗寿園愛々)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	○一人ひとりのペースに合わせたり、その日の天気により外出など利用者の状態を見ながらその都度対応を考え取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	○外出(買物、散歩、地区の行事見学)を行いながら残存能力を活用する事に努めている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○従来からの本人、家族とかかりつけ医との関係を尊重し、受診を継続していただいている。状態が変化した場合には家族へ報告し主治医へ相談していただいている。発熱や食欲不振・便秘など体調不良時には家族へ報告、受診を通して医師へ相談を行っている。状態によって薬に関する内容が含まれる時には、直接相談し指示を受けている。認知症による精神症状等が目立ってきた際、家族と相談して専門医への受診を勧めている。	事業所の提携外でも、入居者にあった適切な病院を使ってもらい、連携をとって対応している。通院は家族とも協力しながら、同行したり、通院支援をしており連絡ノートや申し送りによって情報を共有する。毎月の定期受信や訪問歯科による往診は2週に1回行われている。事業所の看護師は現在休職中だが、併設するデイサービスに常駐する看護師とも協力して、継続して医療支援もなされていた。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	○看護師(併設DS・法人本部)へ連絡・相談・報告を行い、連携を図っている。(H26.4~育休・看護師復帰予定)		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	○入院時は日常の情報を提供し、主治医や病院と連絡を密にとり、早期退院に向けて話し合いを行っている。(カンファレンス参加)		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	○医療機関と連携を図り、事業所で出来る範囲での対応を行っている。	今までに事業所で看取ったケースはなく、出来ること出来ないことを見極めた上で、現状では終末期の受け入れは行っていない。必要時には医師にも同席してもらって説明、了承してもらい、協力医院や施設への紹介で対応している。法人の看護師が開く医療に関する研修によって医療対応の理解に務めている。	現在は看取りをしない方針であるが、今後備えて、提携医療機関との連携体制や、支援体制に関する話し合いなどが検討されていくことに期待したい。
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	○緊急時のマニュアルを作成し、目のつくところに用意している。 ○勉強会に参加し実践している。		

H25自己・外部評価表(宗寿園愛々)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	○避難訓練を実施している。消防署、地域の消防団の方々と共に夜間想定避難訓練を実施している。	年2回の防災訓練が実施され、消防署立会のもと、夜間想定訓練も行っている。地域の区長や民生委員、利用者家族にも呼びかけて参加してもらった。新入職員には入職時にマニュアルを渡しており、スプリンクラーなどの防災設備も完備されていた。法人の敷地を活用して地域防災を合同で行うこともあり、連携体制がとられている。	地域防災を一緒に行うなど、既に地域と連携した災害対策が取られているので、今後の連携体制の強化として備蓄物の準備の検討がなされていくことにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	○尊敬の念を持ち、その方に応じた声掛けを各自、実践している。又、利用者の立場に立って考えプライバシーが守られるよう気をつけている。	法人の全体研修によって接遇やマナーに関して学ぶ機会がある。サービスや言葉かけに関しても利用者や職員それぞれの関係などを共有して柔軟な対応を心がける。個人情報の利用も事前に説明して同意を得たものだけに留め、人権学習とも関連して尊厳の尊重に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○出来るだけ1対1で話が出来る時間を作り、本人の思いが伝えやすい場を作っている。選ぶことが難しくなってきた方へ2つの中からどちらがよいか尋ねたり工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○一人ひとり体調やペースを見ながら休息をとったり、家事を手伝ってもらったりなどしている。どのように過ごしたいかなどは本人に聞いておらず、今後は本人に確認しながら一緒に一日の過ごし方を考えていきたい。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	○出来るだけご自分で整容してもらえよう鏡の前に立っていただき、髪をかかしていただいている。月1回のお化粧教室を通して楽しみとおしゃれに対しての意識を持っていただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○全利用者の参加は困難であるが、個々の出来る事を職員が把握して、食事の準備、片付けに参加して頂いている。又、季節感のあるものや、秋刀魚や鯛のアラ炊き等在宅時と変わらない物を提供し、味覚や懐かしさを回想し、満足して頂いている。月1～2回程個々の好みに応じて外食を行っている。	朝夕は事業所で調理し、昼間のみ併設のデイサービスで調理されたものが配食される。食材は法人の管理栄養士が手配し、栄養に配慮したメニュー作成も行われる。食事は写真に残して家族への報告にも活用され、献立も和洋中問わずバイキングや鍋物などバリエーション豊かに提供されていた。入居者もできることは手伝い、調理まで関わる方もおり、職員も一緒に食卓につき、和やかに会話も弾みながら食事を楽しんでいる。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○食事・水分共に摂取量をチェックし記録している。食欲のない方、摂取量が少ない方へは、ご本人が食べ易い物、食べれる物を提供している。		

H25自己・外部評価表(宗寿園愛々)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	○ご自身でできる方以外はリビングの洗面台に歯ブラシを置いて毎食後声掛けから、見守り、一部介助の方まで対応している。義歯装着者には外していただきブラッシングや夜間入れ歯洗浄剤にて除菌洗浄している。個々の歯ブラシ等も毎日漂白剤に漬けて洗浄している。 ○週に1回訪問歯科を利用し口腔ケアに努めている		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	○出来る限りトイレで排泄が出来るように誘導している。(必要に応じて排泄チェックを行っている)夜間も必要に応じて声掛け実施	支援が必要な方のみ、排泄チェック表を用い、夜勤者が個別記録に転記して管理している。適切なトイレ誘導によって昼間パット利用されていた方の失敗が少なくなり、夜間のみ利用に軽減されたこともある。ミーティングなどで自立支援について話し合い随時改善につなげ、全体のパット利用も減ってきている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	○お茶・オヤツ・食事作りにオリゴ糖を使い便秘の改善をしたり、工夫している。 海草寒天ゼリーも提供している。 ○歩行する機会を作るよう努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	「毎日入りたい」と希望のある方は、毎日入浴され、出来る限り本人、家族の希望を聞くようにしている。	同じフロアのデイサービスと共同の浴室で、3人ほど入れる大きめの浴槽とリフト付きの個浴浴槽がある。脱衣場にはエアコンもつき浴室の窓は広く眺望も良い。3人ほど一緒に入浴してもらい、午後からの入浴で週3日から毎日でも対応できる。拒まれる方にも声掛けや誘導によってスムーズに入浴してもらっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	○ケアプランに準じて休息の必要な方へはその都度休息を促している。その他の方に対しても活動の後や本人の様子を観察しながら休息を促している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○申し送りカルテ等を職員が把握して理解に勤めている。 ○利用者ノートを活用し、主治医からの指示や報告を周知、把握している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	○それぞれの好きな事を職員が把握して趣味などが継続的に行えるように支援し、活動を地域の広報誌に掲載して、ご家族や地域の方にも知ってもらうことで本人の意欲を高めている。		

H25自己・外部評価表(宗寿園愛々)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	○「買物に行きたい」と希望があればその都度出掛けられるようにしている。又、ご家族にも外出をお願いするなどして可能な限り外に出れるように努めている。	その日の状況に応じた外出も気軽に楽しみ、気候のいい時は毎日のように外出している。全体での外出行事以外にも法人の大型車を活用して、週1回以上の頻度でドライブ、買い物、外食などが行われる。意欲に乏しい方も入居者同士で誘いあったりして、全体で均等に、変化のある外出が支援されていた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○数名だが、ご自分でお財布を持ち、ご家族、職員と一緒に管理している。外出時には、ご自分で支払いされ出来る事を継続していただけるように支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○電話の希望がある方は電話される。FAの希望、本人の要望から携帯を所持している方も居られ、時折ご自分で電話をかけることもある。遠方のご家族には手紙を出されたり届いた手紙の返事を書かれたりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○不快感や混乱等をまねくような空間にしないように努めているが、生活感にはまだ乏しい面もあるかと感じる。季節に応じたディスプレイ(利用者で制作したもの)をリビングに装飾している。	中心にあるリビングは広く、ダイニングテーブルも余裕をもって各所に置かれ、それぞれが好きな場所できつろぐことができる。調査日はクリスマスの飾り付けやBGMも流れ、廊下の天窓や暖色系の照明とあいまって暖かみのある空間が演出されていた。リビングの洗面所も2箇所あり、使いやすく、廊下にも除菌加湿器がおかれて過ごしやすい空間の配慮がなされていた。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○居室できつろぐ時間を大切にする為に目隠しとして入口に暖簾などしてプライバシーの配慮に努めている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○使い慣れた物(タンス等)を持ち込まれていたり、冷蔵庫、テレビを設置されている方も居る。使い勝手が悪いと希望があれば家具を動かしてその都度、模様替えをおこなう。	居室は全室、トイレ、鏡付きの洗面台が備え付けられ、ベッドも事業所によって準備される。入居者の使いやすい位置にベッドや家具の位置は配置されており、たんすや、テレビ、椅子など使い慣れた家具を持ち込んで思い思いの部屋づくりがされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○理解の出来なくなった方には目に止まる程度の張り紙をしたり、ボタンなどの横に説明を少し書いたり工夫しながら理解しやすいようにしている。必要に応じてスケジュール表等を作成している。		